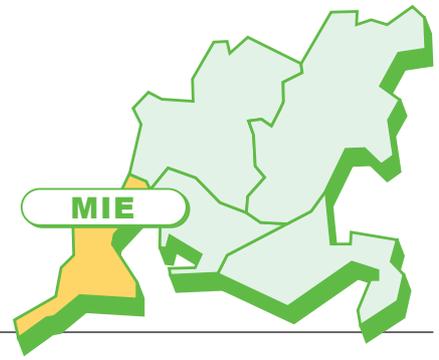


中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

宮川森林組合の挑戦 ～多様で豊かな森林資源と森の文化を未来へ～

1. 森林経営が抱える課題

森林面積が国土の2/3を占めるわが国は、先進国で有数の森林大国といえる。森林は、土砂災害防止・土壌保全、水源涵養、生物多様化などの多面的な機能を保有している。中でも、わが国は



大杉谷の絶景ポイントの一つシシ淵



環境省の「かおり風景100選」に選ばれた大台ヶ原の自然林

2016年に締結されたパリ協定で、温室効果ガス排出量を2030年度に2013年度比で26%削減することを表明しており、地球温暖化防止の面で森林が果たす役割は極めて大きい。

一方、現在の森林経営は、「森林の役割とそれに適したゾーニング管理」「森林経営の効率化・コスト競争力確保」「森林経営の集約化・近代化」「森林を支える人材育成とリーダーシップ」などの課題に直面している。こうした課題に地域をあげて取り組み、ユニークな森づくりを行っているのが三重県多気郡大台町の宮川森林組合だ。

計画的な造林がはじまり、昭和30年代以降、造林規模の急速な拡大で繁栄してきた。しかし、近年では木材価格の低迷や後継者不足(大台町の現在の人口は約9,300人。1955年のピークから約1万人減少)などの理由から生産活動が著しく停滞し、手入れが行き届かない人工林が増加している。まさに前述の森林経営の課題に直面している状況だ。

※ユネスコエコパーク：豊かな生態系や生物多様性を守りながら文化的・経済的・社会的に持続可能な発展を目指している地域として、ユネスコが認定する「生物圏保存地域」の日本での通称

2. 大台町と林業



大台町は、町全域がユネスコエコパーク※に認定されており、原生に近い自然が残る日本三大渓谷「大杉谷」、日本屈指の秘境「大台ヶ原」、清流日本一に何度も選出されている一級河川「宮川」など、自然景勝地を多く有している。

大台町の林業の歴史は古く、1304年の伊勢神宮式

年遷宮の際に、御杣山として用材が切り出されている。明治30年代後半にはスギ・ヒノキなど針葉樹の

3. 広葉樹の森づくり

スギ・ヒノキなどの針葉樹の林業は、植樹から50～60年後に収穫を行い、新たに植樹するという長期間のサイクルで成り立ってきた。しかし、山林所有者の高齢化と後継者の不在が、次の世代に向けた森づくりへの投資をためらわせている。そのような中、宮川森林組合は戦後に植樹されたスギ・ヒノキが収穫期を迎えている今が森づくりの岐路にあるとの認識に立ち、2007年に広葉樹の森づくりを開始した。これは、立地や針葉樹の特徴を考えずに行われた一斉造林によって生じた山崩れや虫害などの反省に立った試みでもある。

この取り組みの1つ目の特徴は、「**広葉樹を中心とした多様性の高い森づくり**」。既存のスギ・ヒノキに加え、本来の多様な樹種が生育する多様性の

